

赤字企業の経営者は交代させるべきか —企業業績と経営者交代の関係—

清水 一

目 次

- | | |
|--------------|------------|
| 1. はじめに | 4. 実証分析の結果 |
| 2. 先行研究と仮説 | 5. まとめ |
| 3. サンプルと業績指標 | |

赤字企業において経営者が交代すると業績が改善するかについて実証的に分析した。1998年から2011年の間の東証1部上場企業を中心としたサンプルを分析した結果、経営者の続投・交代は業績の推移に影響を与えていないこと、および、赤字企業において経営者の交代による業績の改善効果が見られないことが分かった。つまり、赤字企業の経営者が交代しても、平均的には業績は改善しないことが明らかになった。

1. はじめに

業績の悪い企業の経営者は交代させるべきだという主張を聞くことがある。分かりやすい主張であり、妙に納得させられる。この主張の背後には「業績の悪い経営者が交代すると、業績は回復するはず」という信念があると思われる。しかし、経営者はそれほど企業業績に影響を与え得るのであろうか。経営者と企業業績の関係については、2つの相反する見方がある。一つはリーダーシップ仮説で経営者は企業業績に重大な影響を与え得るとする。もう一つは、制約 (constraint) 仮説で、

経営者はあらゆる制約にがんじがらめになっているため、業績に影響を及ぼすことはあり得ないというものである。クラーナ [2005, p48] は、「CEOは極め付きの重要性を持つ」と世間は根強く信じているが、CEOのリーダーシップと企業業績の関係性についてはっきりとしたことは分かっていないと指摘する。

本研究では、98年から11年の間の東証1部上場企業を中心とした経営者データにより、企業業績と経営者交代の関係を実証的に明らかにすることを目的とする。特に赤字企業において経営者を交代させることが、企業業績を改善するかという

清水 一 (しみず はじめ)

大阪経済大学情報社会学部准教授。2001年神戸大学大学院経営学研究科後期課程修了、博士(経営学)。03年高松大学経営学部専任講師、10年大阪経済大学経営情報学部講師、15年より現職。主な著作は「経営者の年齢と企業評価」証券アナリストジャーナル07年11月、「人員削減と株価パフォーマンス」(山崎尚志氏との共著)『経営財務研究』07年12月、「管理職比率と企業評価の関係」『経営財務研究』08年12月。